

**2011年度 株式会社資生堂 入社式 新入社員訓示(要旨)**  
**代表取締役社長 末川久幸**

資生堂は、2011年4月1日、13時から資生堂汐留オフィス(東京・港区)にて入社式を執り行い、総合職全国コース96名、業務実習社員1名、合計97名が入社しました。社長訓示(要旨)は以下の通りです。  
(全文は別添資料をご参照下さい。)

**挨拶に先立ち**

このたびの東日本大震災により、被害をうけられたみなさまに、謹んでお見舞い申し上げます。皆さんもご承知のとおり、今回の震災で日本にはかつて体験したことのない未曾有の試練が訪れています。私たち資生堂グループは、引き続き被災地の皆さんに対し全社をあげて精一杯の支援を行っていくと同時に、本格的な復興に向け全社一丸となってこの難局を乗り切っていくことを共に誓い合いたいと思います。今日晴れて入社を迎えられたことへの「感謝」と、社会人になるということの「責任の重み」を改めて考え、社会と向き合っていたきたいと思います。社会や他人に想いを馳せ、我々一人ひとりの力を尽くしていきましょう。

**皆さんに期待したいこと**

新たに資生堂の社員となる皆さんに、期待したいことは以下の3点です。

**1. お客さまを想い、お客さまの期待を超えること**

お客さまの美しさを願い、お客さまが抱かれている「期待を超える感動」をお届けすることが資生堂の企業活動の原点です。これからの長い資生堂生活の中で、様々な分野の仕事を担われると思いますが、どのような仕事を担っても、自分の最善を尽くし、それぞれの職場で常にお客さまの満足と感動を追求し続けてください。そして、この仕事がお客さまの喜びに繋がっているかどうか常に考えください。

**2. 夢を持ち、夢に挑み続けること**

社会人になってからも自分の夢を持ち続けることが大切です。組織の中で経験を積んでいくと、壁にぶつかってくじけそうになることもあります。それでも夢を持ち、その夢に挑み続けることで人は成長します。将来何をしたいか考えるのではなく、将来どういう姿でいたいかを踏まえ、今何をするか考えられる人であって欲しいと私は願っています。

**3. 人を大切に、人に優しくすること**

企業にとって、もっとも大切な経営資源は「人」です。「人」には、「心」があり、「夢」を持ち、「無限の可能性」を秘めています。どんな仕事も決して一人では完結しません。感謝の気持ちを常に持ち、人に優しくできる気持ちや行動で資生堂や社会全体を満たしていただくことを、心から願っています。

**「日本をオリジンとし、アジアを代表するグローバルプレイヤー」へ**

資生堂は、目指す姿として、「日本をオリジンとし、アジアを代表するグローバルプレイヤー」になることを掲げており、10年前には約1割程度であった海外売上高比率も、今や4割を超えています。

「異なる価値観」を認め、受け入れ、尊重し合う「ダイバーシティ(多様性)」の視点を大切に、常にグローバルな視点で物事を考えてください。

本日は、私から皆さんに社員章と共に鏡をお渡しいたします。鏡に映る真実を直視し、社会と共に生きる資生堂人として、常に襟を正しましょう。活躍を祈念しております。共に、頑張りましょう。

2011 年入社式「お祝い」の言葉(全文)

株式会社資生堂  
代表取締役社長 末川久幸

社長の末川です。97 名の新入社員の皆さん、入社おめでとうございます。国内外の資生堂グループで働く 43,000 人の全社員を代表して、皆さんの入社を心から歓迎します。

ご挨拶に先立ち、一言申し上げます。

このたびの東日本大震災により、被害を受けられたみなさまに、謹んでお見舞い申し上げます。

今回の震災で、日本にはかつて体験したことのない未曾有の試練が訪れています。毎日、胸が張りさけそうな思いは、皆さんも同様だと思います。一方、被災地の方々を思って、「今、私たち一人ひとりができることは何か」を考えられている方も、たくさんいらっしゃる事でしょう。

私たち資生堂グループは、引き続き被災地の皆さんに対し、全社をあげて精一杯の支援を行なっています。今後の本格的な復興に向けて、全社一丸となって、この難局を乗り切っていくことを、共に誓い合いたいと思います。

一方、今日晴れて入社を迎えられたことの「感謝」と「責任の重み」を深く考えてみて下さい。そして、この震災を、皆さんお一人おひとりがもう一度「社会」に向き合う機会と、捉えて頂きたいと思います。一人ひとり小さな存在ですが、人間が持つ「優しさ」と「強さ」をもって出来ることは必ずあります。皆さんが、社会や他者に想いを馳せ、あなたが持ちうる「力」を尽くすことを、私は強く願っています。

それでは、これから皆さんに 3 つのお話をさせていただきます。

まず最初に、「社会人になるということ」です。

皆さんは、数多くの企業の中から、資生堂を選んでくれました。そして、私たちも多くの希望者の中から、皆さんを選ばせて頂きました。私はまず、今日の出会いに、そして、ここまで皆さんを育てて下さったご両親をはじめ、多くの方々に感謝しています。

今日から皆さんは社会人になりました。

ところで、「社会人になる」とは、どういうことなのでしょう？ 皆さんなら、どう答えますか？

私は、社会人とは、「自ら仕事をして」「その対価を得て」「生きていく人」だと思います。

これまで皆さんは、ご両親や先生などの支援や伴走があって、生きてこれたのです。しかし、社会人とは「仕事をして対価を得る」訳ですから、その道のプロフェッショナルとして扱われるのです。つまり、「自律して生きていくこと」が前提です。

社会人として生きる上で、大切なことが 2 つあります。

1 つ目は、「社会の規範に見合う仕事をする」ということ。簡単に言うと、「正しく生きる」ということです。

では、「正しく生きる」の「正しい」とは、どのようなことでしょうか？

皆さん、「正」しいという字は、「どんな字」と「どんな字」に分解されると思いますか？「正しい」という字は、ご覧のように「一」という字と「止」まるという字に分解されます。「正しい」とは、「この一線で止まれ」ということ。その一線というのが「規範」つまり、社会や集団において個人が同調することを期待されている行動や判断の基準なのです。この一線を越えてしまうと、それは正しいことではなくなるのです。「正しくないこと」が会社で行われると、皆さんもご存知のとおり、個人が厳しい制裁を受けることは勿論のこと、ともするとブランドや会社に大きな損害を与えることになるのです。この一線は、私たちにとっての大切なモノサシであるということ覚えておいて下さい。

2 つ目は、「学び続ける」ということです。

皆さんは、これから先の長い「資生堂人生」の中で「研究・工場・マーケティング・営業」など、全世界の様々な部署で仕事をしていくこととなります。会社や上司は、色々なことを教えてくれるでしょう。しかし、それは「最低限

必要なことではない」と思って下さい。プロの資生堂人として生きていく訳ですから、教わったことだけでは不十分。そこから先は皆さん自身が学ばなくてはなりません。「学校を卒業したのだから、もう勉強などしなくていい」というのは、大いなる誤解です。社会やお客さまが変化するスピードは、想像を絶する速さです。このスピードを超えてモノゴトを考えていかなければ、私たちが創る商品やサービスなどの「価値そのもの」も、「お客さまにその価値を届けるマーケティング」なども通用するわけがありません。スポーツの世界でもエンターテインメントの世界でも、頂点に立つ人は、スティックに努力や勉強をし続けている人です。「天才とは 1%のひらめきと、99%の努力」と、エジソンも言っています。

どうか、「プロの資生堂人」として、これまで以上に学び続けて下さい。

次に、私たち「資生堂が大切にしていること」についてお話します。

資生堂は、今から 139 年前の 1872 年(明治 5 年)に、日本初の洋風調剤薬局として銀座の地で創業しました。社名は、中国の古典の一つ『易経』の第二章にあたる『坤卦(こんか)』の一節、「至哉坤元、万物资生」から頂いたものです。これは、「大地の徳はなんと素晴らしいものだろうか。全てのもは、ここから生まれる。」という意味です。この社名には、創業者・福原有信の深い想いがこめられています。まず、出典となった『易経』は、「宇宙、天地・自然の変化の法則」や、「人間の大きい変化」を説いており、経験則をまとめあげた書物です。その第一章は、『乾卦(けんか)の巻』。この章は、「天」について述べたもので、「ものの始め」とは何か…が説かれています。この世に渦巻く「気」、すなわち、「希望」・「展望」・「望み」について記されています。資生堂の由来となった、第二章の『坤卦(こんか)』は、「地」について述べており、「天地創造」という言葉にもあるように、「天」の気持ちを受け取って、「姿に表す」ことが記されています。一言で言えば、『坤卦(こんか)』は「具体的に形にする」ことなのです。つまり、この「乾(けん)」「坤(こん)」とは、出発点は、あくまでも、世の中であり、織り成す人間の気持ちであるが、モノとして形になってこそ、感じられるものであると説明しています。このように、「資生堂」の「資生」には、世界中に無類に広がる希望や願いを一つひとつ大切に受け取って、「坤(こん)」である「大地」の代表として形にすること、つまり、商品や事業、サービスとして創り出し、大地を希望で満たすことという想いが込められているのです。

資生堂が 139 年も存在出来ているのは、「いつまでも美しく健康でありたい」というお客さまの願いに対して誠心誠意、応え続けてきたからに他ならないのです。資生堂グループが、「何をもって世の中に役立っていくのか」…。言い換えれば、私たち一人ひとりの存在意義は、今年新たに作り上げた企業理念、「Our Mission Values and Way」の「Our Mission」に集約されています。

私たちは、多くの人々との出会いを通じて、新しく深みのある価値を発見し、美しい生活文化を創造します

この実現のために、グループの全社員が活動しています。ですから、「Our Mission」は「資生堂が大切にしている最も基本的な考え方」と言えます。私たちは、2007 年に 10 年後の 2017 年に目指す姿を「日本をオリジンとし、アジアを代表するグローバルプレイヤー」と定め、10 年間で 3 つのフェーズに分け、経営計画をスタートさせています。この言葉には、銀座を発祥の地とする資生堂が、これまでの長い歴史の中で培ってきた「美意識」や「文化性」、そして「社会性」を、さらに磨き、高めながら、アジアで NO. 1 の会社となって、世界中のお客さまのお役に立つという「志」を込めています。現在、私たちがビジネスを展開する地域は、日本を含め、世界 85 の国と地域となり、世界中に広がりました。20 年前には約 1 割程度だった海外売上比率も、今では 4 割を超えるまでになりました。これからの皆さんの活躍するステージも、グローバルとなり、世界中のお客さまに「夢と感動」をお届けする一翼を担って頂くこととなります。これまで述べてきた「私たちの存在意義」や、「これから目指すビジョン」は、この後、皆さまと共に歌う資生堂の社歌にも込められています。資生堂の社歌は、1946 年 10 月 20 日に制定されました。戦後、日本全体が焼け野原になり、国民全員が意気消沈している時、資生堂の社員が元気を取り戻せるよう、「気持ちの拠り所」となるよう社歌がつくられたと言われています。資生堂の社歌は、三番まであります。オリジナルの歌詞と現代語訳したものをご案内します。

一番には、私たちの「化粧品への想い」が歌われています。

(われらがこめたる露のしずく、玉なすはだへに泌まむときぞ、あかるきひとみはからやきそふ)

私たちが心をこめて作り上げた化粧品の一滴が、美しい肌に染み入る時、お客さまの明るい瞳が輝きを増す。

資生堂が、世界のお客さまに対して、このようにお役に立ちたいという願いが込められています。

二番は、「グローバル」について歌っています。先ほど申し上げたとおり、社歌が作られたのは、戦後復興期でしたから、世界の平和と発展を祈っています。

(世界を友としむつみゆけば 典雅と明麗海を越えて)

世界中を友として親善してゆけば、プレステージと明るい美しさ、つまり、「資生堂の創り出す価値」は海を越えていく

とあります。

私は、戦後間もない大変な時期に、既に「グローバル化」を目指していたのか…と、感じています。

そして三番では資生堂の発祥の地、「銀座」について歌っています。

(煉瓦地柳のゆかりふかく 銀座のさかえをここに占めて 誰かは知らざる 資生 資生 資生のよき名を名にし おへば)

柳とゆかり深い煉瓦の街銀座 その銀座の反映と共に栄えてきた誰もが知っている資生、資生 資生という良い名に恵まれて…

私たちの出発点である「銀座」へ、そして「社名」に戻りつつ、「新時代に向けて、社員全員の心が美しくあってほしい」という想いで結ばれています。

いかがですか？後程、皆さんと一緒に社歌を歌いますが、込められた意味を考えながら歌ってください。あらためて、皆さんは、139 年もの間、「人を想い、美しさを通じて世の中に貢献すること」を大切にしてきた資生堂に入社されたのです。これから先の「資生堂の未来」は、皆さんが創っていくのです。私は、多くの先輩方が築いてきた資生堂を、「皆さんと一緒にもっともっと素晴らしい会社にしたい」と思っています。どうか、私たちの目指す目標の実現にむけて、皆さんお一人おひとりが活躍されることを心から祈っています。

さて、それでは、最後に、資生堂の社員としての第一歩を踏み出すにあたり、私から皆さんへ期待したいことを 3 点お話しします。

1 つ目は「お客さまを想い、お客さまの期待を超える」ということです。

「お客さまの美しさを願い」、「お客さまが抱かれている期待を超える感動をお届けすること。これが、資生堂の全ての企業活動の原点です。

資生堂が 139 年の永きにわたり発展し続けてこられたのは、世界中のお客さまに支えられてきたからです。

私たちが、一時も忘れてはならないことは、「企業活動の全てのコストを負担しているのは“お客さま”である」

ということです。資生堂には、実に様々な「係」があります。遺伝子レベルまで皮膚を研究する「係」。製品の 1 つひとつに狂いが無いよう目を光らせる「係」。お得意先さまと同じ目標に向かって試行錯誤を重ねる「係」。社長の私も、全社経営の舵取りをする「係」です。どの係の方々も、自分の仕事の先にある「お客さま」、そして、「お客さまの感動」を常に思い描きながら、それぞれの役割を全力を尽くしていくこと…。これが、私たちの目指す「お客さま志向」です。入社式の後、エコール・ド・ハヤマで研修を受け、それぞれの皆さんには、「係」として様々な仕事について頂くこととなります。「係」となったからには、自分の最善を尽くし、それぞれの職場でお客さまの満足と感動を追求し続けることをお願いします。

2 つ目は「夢を持ち、夢に挑み続ける」ということです。

皆さんには、夢シートに記載した、それぞれの夢があると思います。当たり前のことですが、夢は会社が用意するものではありません。ましてや、資生堂に入社することが、夢ではないはずで、これから先、どんな夢を持つかが大切なのです。私は、夢を持って仕事に取組み、その実現に向けて挑戦し続けて欲しいと思っています。

す。何故なら、夢とは、ゴールではなく、そこに向かうための旅路であり、あなた自身の生き方だと考えるからです。組織の中で経験を積んでいくと、目の前の忙しさに流されたり、壁にぶつかってくじけそうになることは、必ずあります。「こんなはずじゃなかったのに・・・」「何で今こんなことしているのだろう・・・」そんなことを感じる日がくるかもしれません。しかし、「夢」は逃げません。逃げるのは「自分自身」です。忙しいから「夢」なんて忘れてしまい、挑戦できないのではありません。「夢」を忘れ、挑戦を続けないから、毎日が不毛な多忙になるのです。夢を決してあきらめてはいけません。だからこそ、「将来何をしたいか」を考えるのではなく、「将来どういう姿でいたいかを踏まえて、今、何をするか」を考えることが大切です。あなたの夢を信じ、これからの仕事に挑んで欲しいと願っています。

3つ目は、「人を大切に、人に優しくする」するということです。

私は、「人を大切にする」という経営が、とても重要だと考えています。何故なら、「人」には「心」があり、「夢」があり、「多様な個性」と「力」があり、「無限の可能性」を秘めているからです。どんな仕事も、一人ではできません。あなたは、必ず周りの人のお世話になっているのです。そして、自分自身が人から信頼され、必要とされなければどんな小さな仕事も進まないのです。人を想い、人を大切に、関係を豊かなものにするのが極めて大切です。自分がしてもらって嬉しいことを、相手にしてあげてください。自分がイヤなことは、決して人にしないでください。これから、皆さんは仕事を通じて、社内外の素晴らしい人と数多く出会うことでしょう。よき上司・先輩・友人は、あなたの人生の中で最大の宝となります。あなたが苦しい時に助けてくれるのも、また、人なのです。その時、「ありがとう」と声に出し、態度で示す。常に、他者に対して、これ以上出来ないくらい、自己の最善を尽くす。それは、必ずギフトとなってあなたに返ります。結局は、あなた自身が幸せになるのです。私は、人を大切に、人に優しくする気持ちや行動、そして「ありがとう」の言葉で、資生堂や社会全体が満たされることを心から願っています。

この3点を、社会の一員としてスタートする皆さんに、ぜひ大切にしてください。最後になりますが、この後、43,000人のグループ社員を代表して私から皆さんに、2つお渡しするものがあります。

1つ目は、社員章です。

資生堂の精神文化の象徴とも言うべき「花椿」の社員章を着けるということは、皆さん一人ひとりが資生堂の顔であり、資生堂の代表であることを社会に宣言するということです。先輩方が築いてこられた歴史、そして私たちがこれから築き上げていく未来に想いを馳せ、誇りとともに大切にしてください。

2つ目は、皆さんのために制作した「鏡」です。

鏡は真実を映し出します。鏡に映るあなたは、元気な表情をしているでしょうか？いつも、チャレンジする勇気や気力に溢れた姿でしょうか？鏡に映る姿で、自身の心と身体の状態を確認すること。あるいは、社会と共に生きる資生堂人として、襟を正すこと。美しさを扱う私たちにとっても、ゆかりの深い道具として、常に自分を見つめ直して下さい。

さあ、扉は開きました。資生堂というステージで、皆さんお一人おひとりが「主人公」として活躍することを心から期待しています。何より、身体が資本です。健やかな心身を保つことに自ら努力し、「明るく」「楽しく」「幸せな」資生堂生活を送られることをお祈りし、お祝いの言葉とさせていただきます。

皆さん、入社おめでとう！共に頑張りましょう！